

こうせんじ（ほんどう）ないじん

興詮寺（本堂）内陣



平成12年4月21日指定



■ 所在地 薩摩郡さつま町広瀬1175

■ 所有者 宗教法人興詮寺

■ 特徴

さつま町にある興詮寺は、永仁5(1297)年に建てられたといわれています。はじめは松尾寺といわれていましたが、応永5(1398)年頃に現在地に移り、松尾山興全寺と改称したと伝えられており、その後、明治時代に現在の興詮寺という名称となりました。

明治の廃仏毀釈では、県内の寺院が廃止される中、破壊を免れ現在に至っているのは、桂樹院(島津義弘の娘)の位牌堂であったためだろうといわれています。

本堂の内陣は、鏡天井や肘木曲線、木鼻などに禅宗の様式をとどめており、これらの細部意匠から15世紀後半のもの推定されています。県内では数少ない中世の寺院建築です。